

4

結婚、出産、子育てをめぐる状況

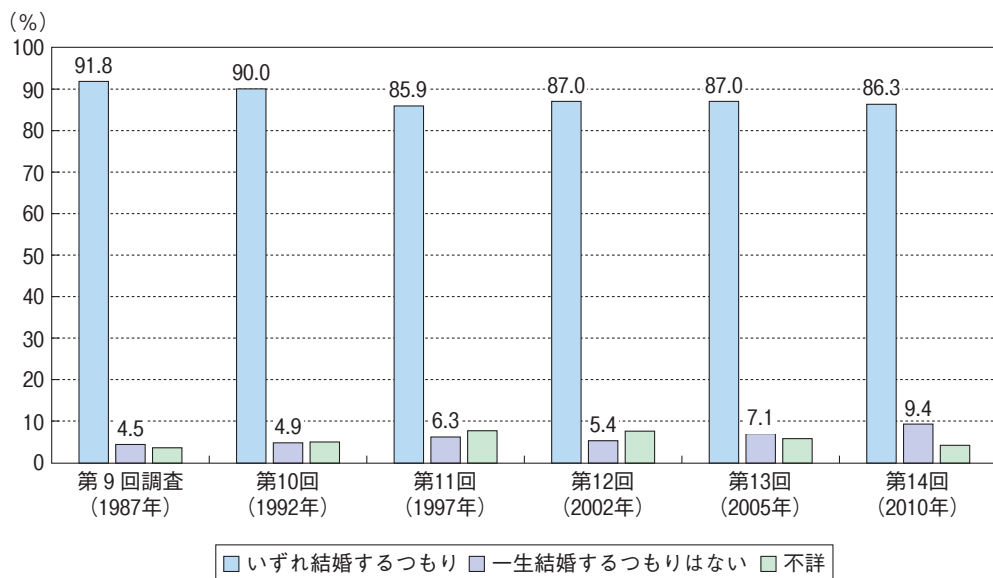
結婚に対する意識

国立社会保障・人口問題研究所が実施した

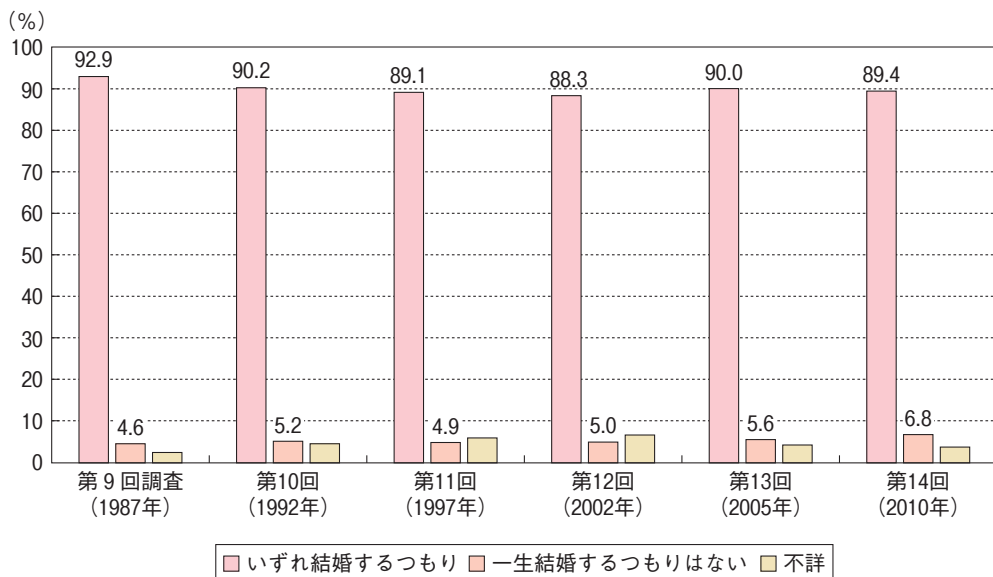
「第14回出生動向基本調査結婚と出産に関する全国調査（独身者調査）」（2011（平成23）年）によると、第1-2-17図のとおり、いずれは結婚しようとする未婚者の割合は、男性は86.3%、女性は89.4%と、依然として高い水準にある。しかし、「一生結婚するつ

第1-2-17図 調査別にみた、未婚者の生涯の結婚意思

男性



女性



資料：国立社会保障・人口問題研究所「第14回出生動向基本調査（独身者調査）」（2011年）

注：対象は18～34歳未婚者。各調査の年は調査を実施した年である。

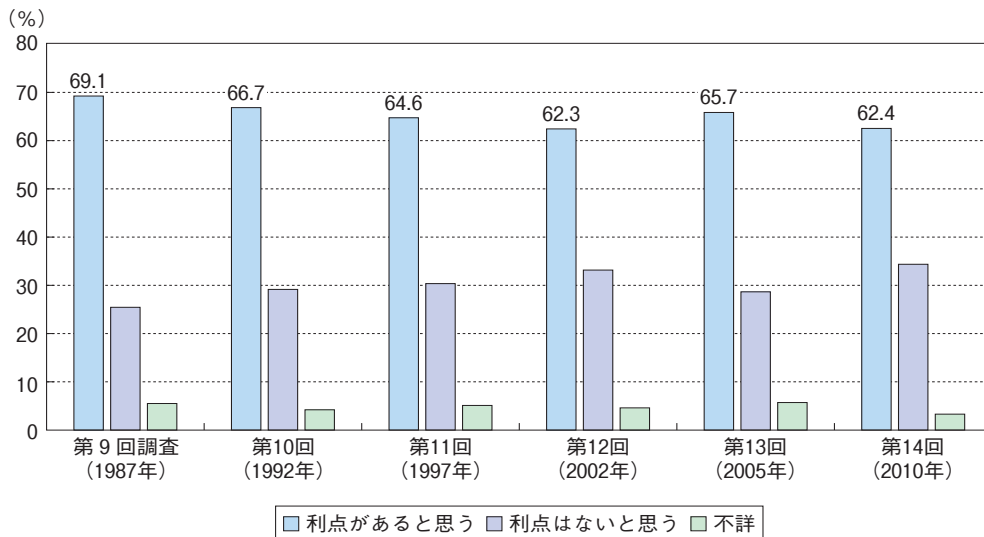
「もりはない」とする未婚者は第9回調査以降、男性、女性ともに緩やかな増加傾向にあり、男性9.4%、女性6.8%となり、独身志向を表す未婚者が増えた形となっている。

また、結婚することに利点があると感じている未婚男性は、第1-2-18図のとおり、第9回調査の69.1%から、緩やかに減少する傾向にあり、前回の第13回調査でやや増えた

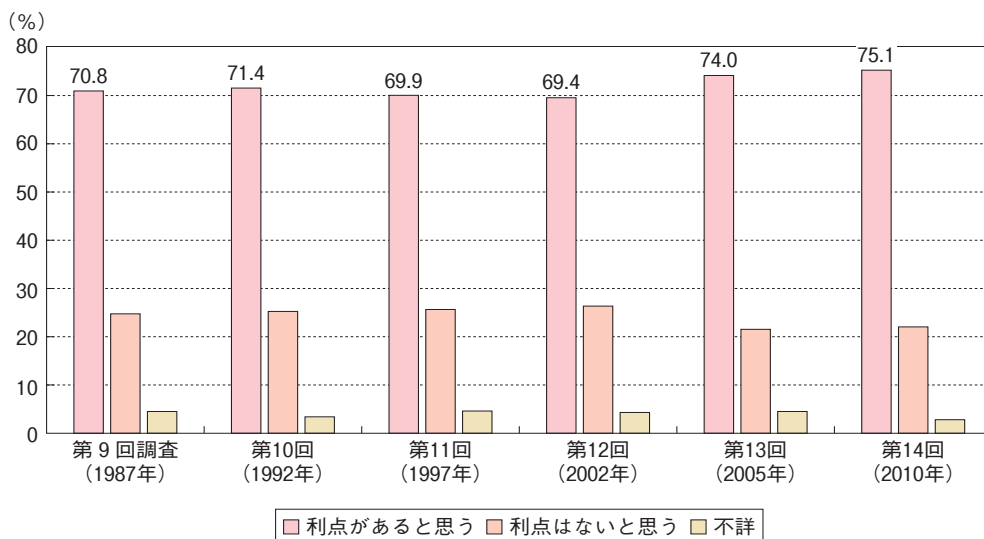
が、今回再び減少して62.4%となった。女性では第9回調査以降7割前後を推移してきたが、第13回調査からやや増えており、今回は75.1%となっている。一方、独身生活に利点があると考えている未婚者は男性で8割前後、女性で9割弱と高い割合を維持しており、今回調査でも男性は81.0%、女性は87.6%となっている。

第1-2-18図 調査別にみた、未婚者の結婚の利点・独身生活の利点に対する考え

結婚の利点（男性）



結婚の利点（女性）



資料：国立社会保障・人口問題研究所「第14回出生動向基本調査（独身者調査）」（2011年）

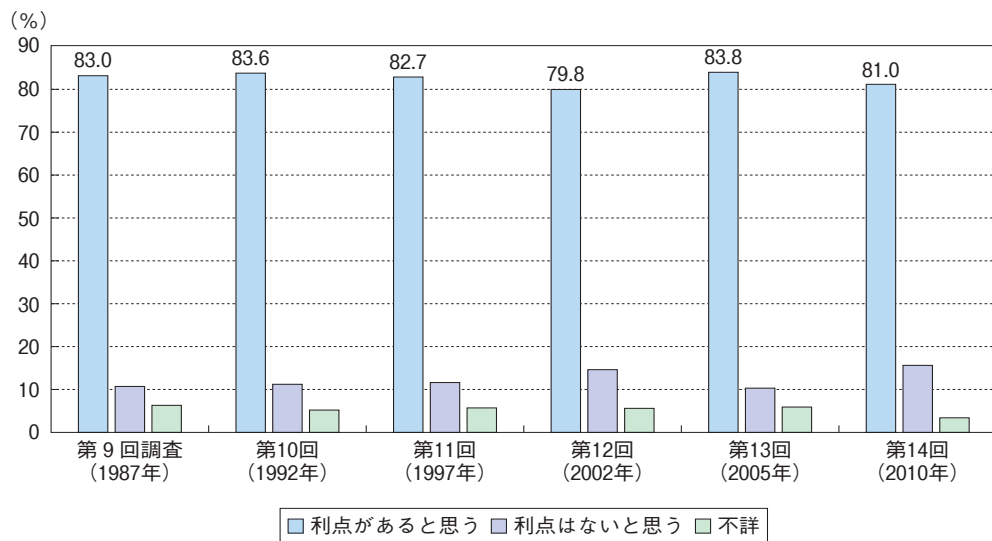
注：対象は18～34歳未婚者。各調査の年は調査を実施した年である。

結婚することの具体的な利点としては、第1-2-19図のとおり、男女とも「子どもや家族をもてる」を挙げる人が第9回調査から増加傾向であり、第14回調査においては、男性では「精神的安らぎの場が得られる」(32.3%)を抜いて33.6%とはじめてトップの項目となった。一方で、「社会的信用や対

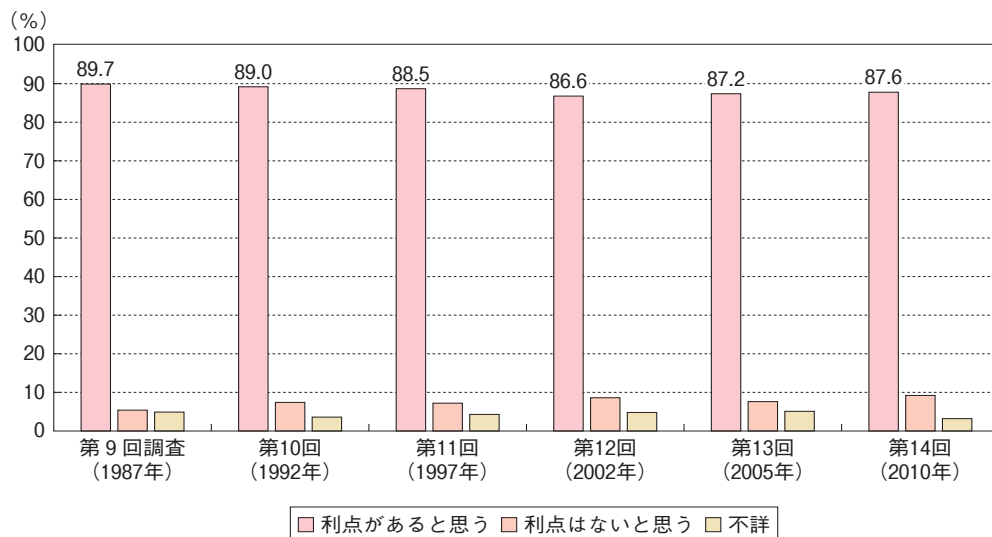
等な関係が得られる」、「生活上便利になる」については、第9回調査から減少傾向である。また、女性では、「子どもや家庭をもてる」「経済的余裕がもてる」は第9回調査から増加傾向である。

一方で、「結婚することを考えたとき気になること」、については、第1-2-20図の

独身の利点 (男性)



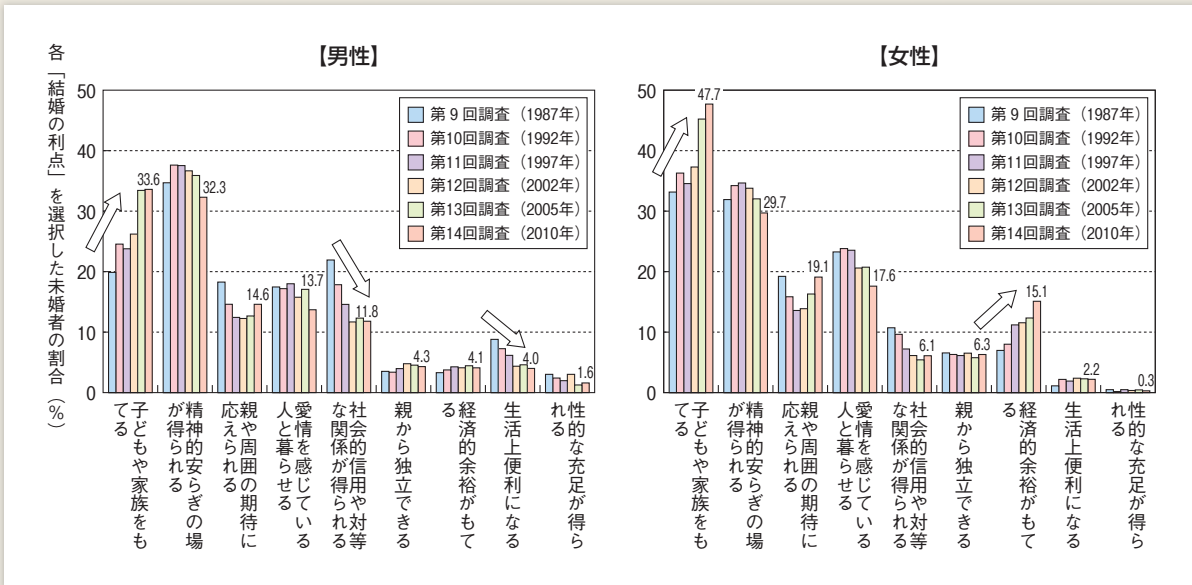
独身の利点 (女性)



資料：国立社会保障・人口問題研究所「第14回出生動向基本調査（独身者調査）」(2011年)

注：対象は18～34歳未婚者。各調査の年は調査を実施した年である。

第1-2-19図 調査別にみた、結婚することの利点



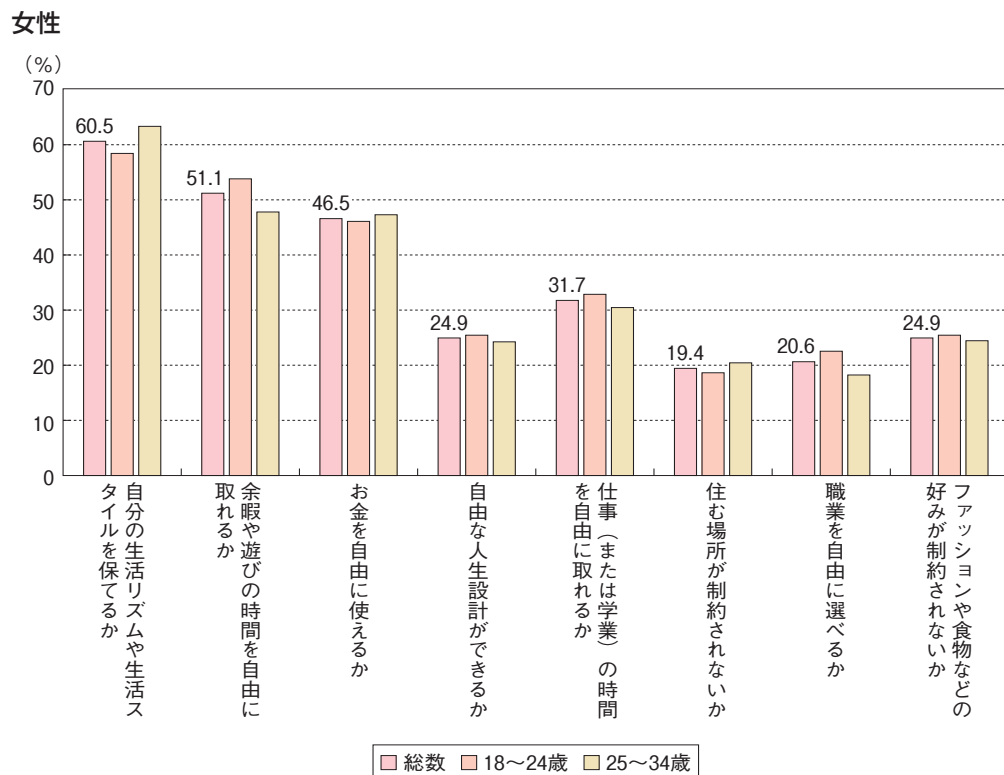
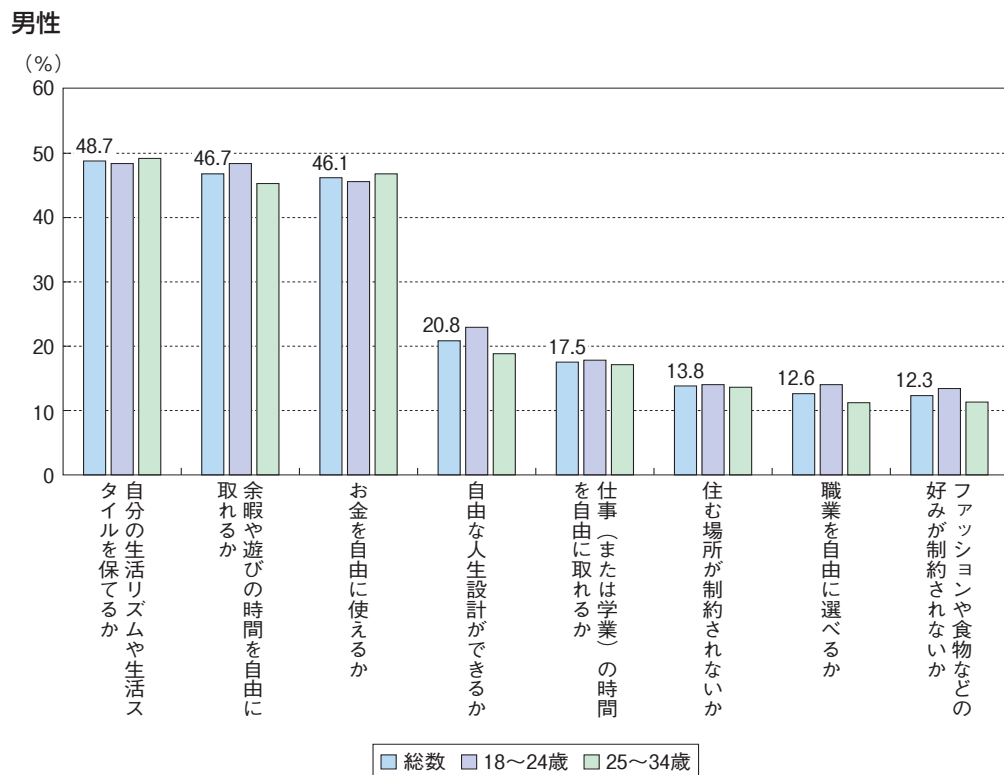
資料：国立社会保障・人口問題研究所「第14回出生動向基本調査（独身者調査）」（2011年）
 注：18～34歳未婚者のうち何%の人が各項目を主要な結婚の利点（二つまで選択）として考えているかを示す。各調査の年は調査を実施した年である。グラフ上の数値は第14回調査の結果。

とおりに、男女ともに主に「自分の生活リズムや生活スタイルを保てるか」（男性48.7%、女性60.5%）「余暇や遊びの時間を自由に取れるか」（男性46.7%、女性51.1%）「お金を自由に使えるか」（男性46.1%、女性46.5%）について気になると考えている。女性は総じて男性の割合に比べて高い割合となっており、特に「仕事（または学業）の時間を自由に取れるか」が31.7%（男性17.5%）、「ファッションや食物などの好みや制約されないか」が24.9%（男性12.3%）となっている。

さらに、未婚者に対して独身にとどまっている理由をたずねたところ、第1-2-21図のとおり、18～24歳では「まだ若すぎる」（男性47.3%、女性41.6%）、「まだ必要性を感じない」（男性38.5%、女性40.7%）、「仕事（学

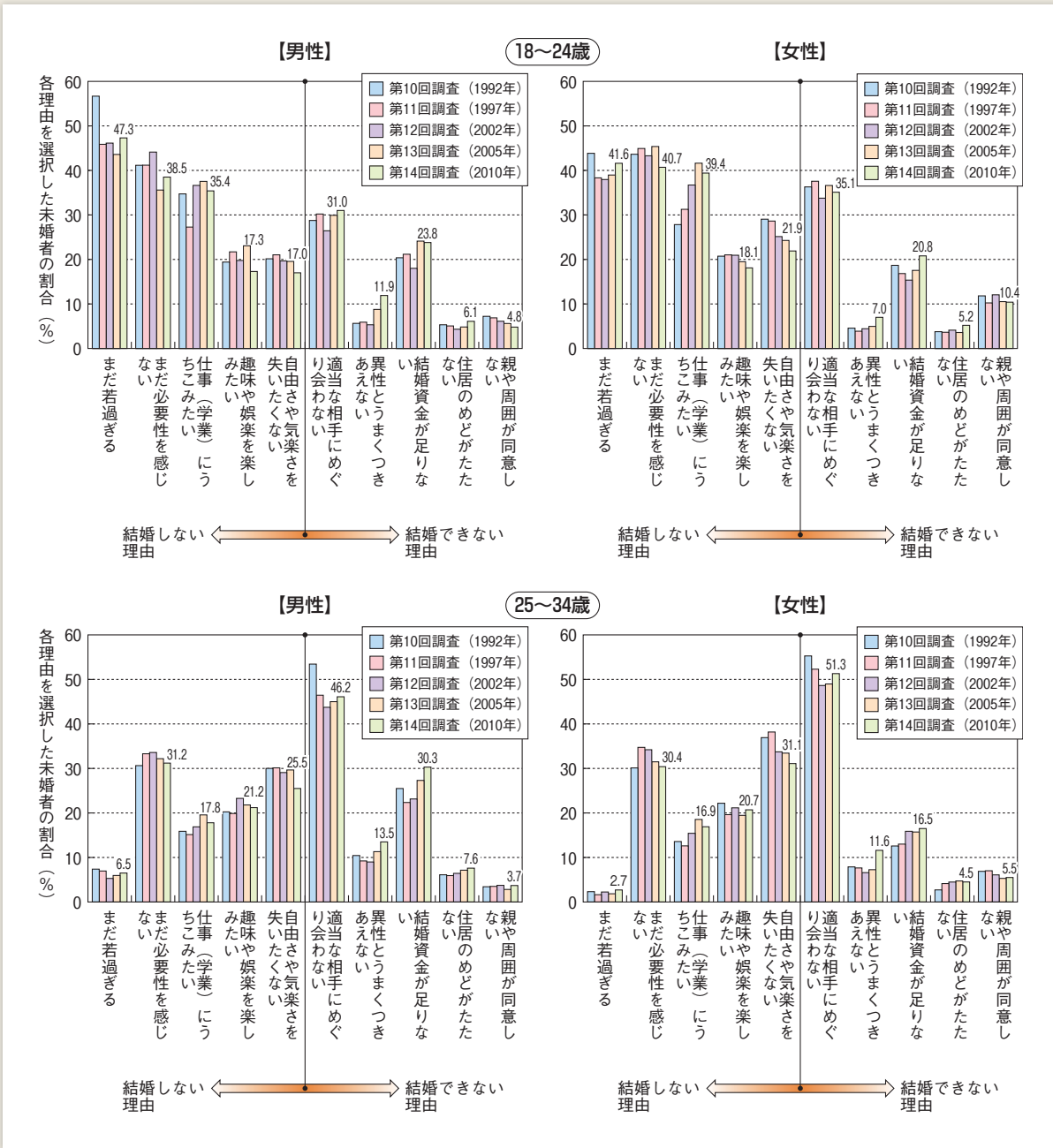
業）にうちこみたい」（男性35.4%、女性39.4%）など、結婚するための積極的な動機がないという「結婚しない理由」が多く挙げられている一方、25～34歳では、「適当な相手にめぐり合わない」（男性46.2%、女性51.3%）を中心に、結婚の条件が整わないという「結婚できない理由」へ傾向が変化している。しかし、「結婚しない理由」のうち、「必要性を感じない」（男性31.2%、女性30.4%）、「自由さや気楽さを失いたくない」（男性25.5%、女性31.1%）について、独身にとどまっている理由としてあげた25～34歳の未婚者は多い。25～34歳の男性では、「結婚資金が足りない」をあげた割合（30.3%）が、女性（16.5%）に比べ高くなっている。

第1-2-20図 年齢別にみた、結婚を考えたとき気になること



資料：国立社会保障・人口問題研究所「第14回出生動向基本調査（独身者調査）」（2011年）
 注：対象は18～34歳の未婚者。それぞれの項目はあてはまる全てに回答が可能。

第1-2-21図 調査・年齢別にみた、独身にとどまっている理由



資料：国立社会保障・人口問題研究所「第14回出生動向基本調査（独身者調査）」（2011年）
 注：未婚者のうち何%の人が各項目を独身にとどまっている理由（三つまで選択）として挙げているかを示す。各調査の年は調査を実施した年である。グラフ上の数値は第14回調査の結果。

また、結婚する意志のある未婚者が結婚相手に求める条件としては、男女とも「人柄」を重視または考慮する人が最も多い（男性95.1%、女性98.2%）。次いで、男性は「家事の能力」（93.1%）、「仕事への理解」（89.0%）、

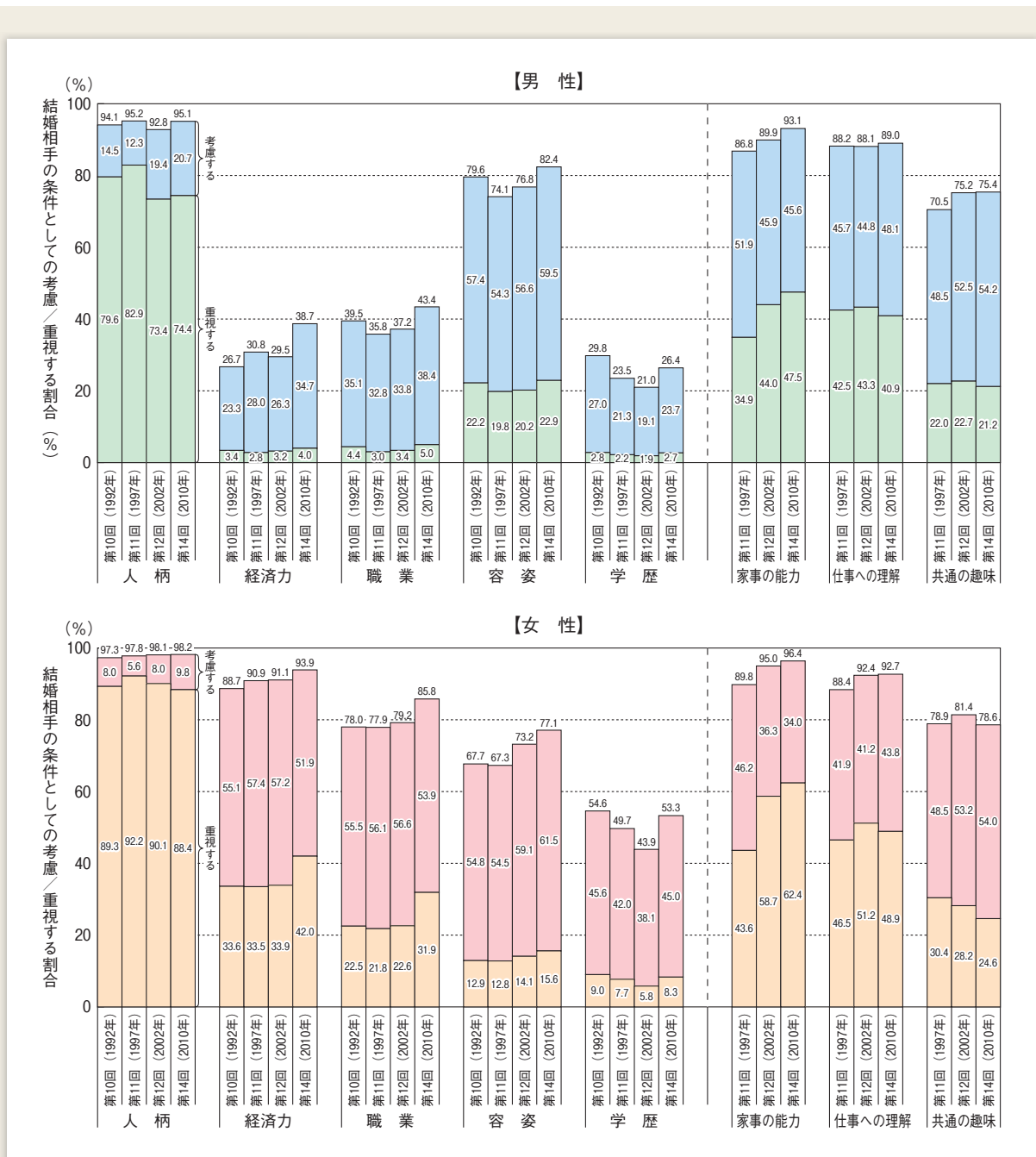
「容姿」（82.4%）などとなっている一方、女性は「家事の能力」（96.4%）、「経済力」（93.9%）、「仕事への理解」（92.7%）、「職業」（85.8%）となっている。
 女性では、男性よりも「経済力」「職業」

を考慮・重視する割合（「経済力」（男性38.7%、女性93.9%）、「職業」（男性43.4%、女性85.8%））が高い。そのうち「経済力」を「重視する」割合は第12回調査の33.9%から42.0%、「職業」を「重視する」割合は

22.6%から31.9%と増加している。

また、男性でも、「経済力」を考慮・重視する割合が、第12回調査の29.5%から38.7%と増加している。

第1-2-22図 調査別に見た、結婚相手の条件として考慮・重視する割合の推移



資料：国立社会保障・人口問題研究所「第14回出生動向基本調査（独身者調査）」（2011年）

注：対象は「いずれ結婚するつもり」と答えた18～34歳未婚。各調査の年は調査を実施した年である。